

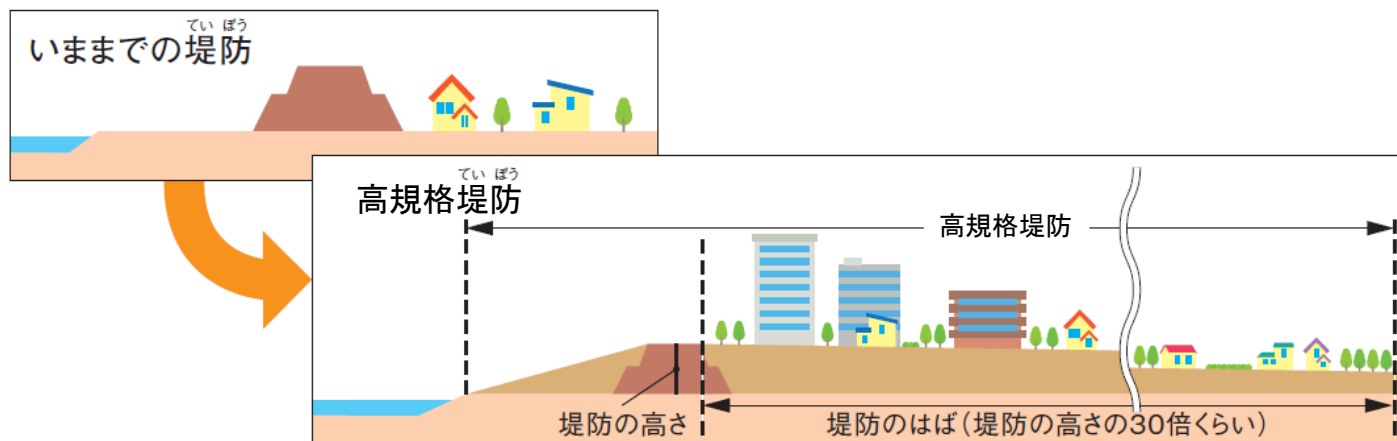
～土でできた、ゆるやかな勾配を持つ幅の広い堤防～

予想を超える大きな洪水による壊滅的な被害から大都市を守る対策です。

荒川上流部改修から
100年
1918-2018



荒川の高規格堤防（東京都江戸川区）



高規格堤防整備事業の概要

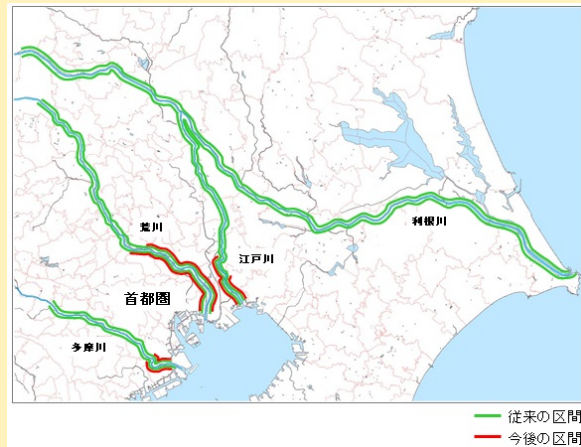
荒川下流部は、そのほとんどが東京湾の平均潮位よりも低い、いわゆるゼロメートル地帯となっており、洪水や高潮から都心や周辺地域を守るために堤防が整備されています。高規格堤防（スーパー堤防）は、現在整備されている堤防の計画規模を超えるような極めて大きな洪水が発生した場合でも、堤防が決壊することを防ぎ、洪水の氾濫により沿川市街地に壊滅的な被害を引き起こすことがないように従来よりも幅の広い堤防の整備を行う事業です。

高規格堤防（スーパー堤防）は、沿川の土地利用とあわせて、まちづくりと一体的に進めています。整備にあたっては基本的に用地買収を行わないので、土地の権利はそのまま、通常の土地利用ができます。

また、高規格堤防にすることによって、堤防の傾斜が緩やかになり、川へのアクセスが向上するとともに、堤防の川側でない斜面を公園や緑地、道路など公共のオープンスペースとして土地の有効活用ができます。さらに災害時には避難場所としても利用できます。

▶ 高規格堤防整備事業の経緯、整備区間

高規格堤防整備事業は、2010（平成22）年度に実施された行政刷新会議の事業仕分けにおいて、「現実的な天災害に備える視点に立ち、治水の優先順位を明確にした上で、事業としては一旦廃止」との指摘を受け、整備区間の見直しを行いました。新たな高規格堤防整備区間は、「人命を守る」ということを最重視し、そのために必要な区間として「人口が集中した区域で、堤防が決壊すると甚大な人的被害が発生する可能性が高い区間」とすることとしました。



高規格堤防整備区間

▶ 高規格堤防の効果①

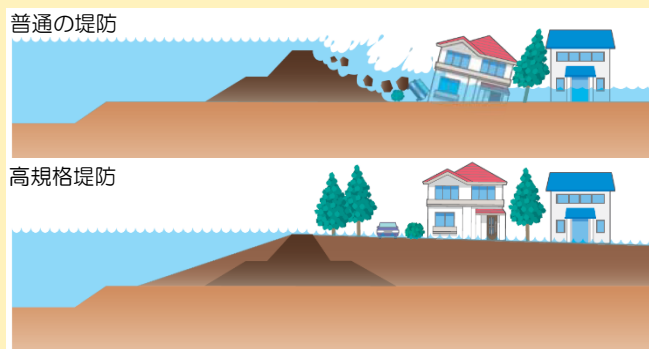
越水しても壊れにくい

普通の堤防は・・・

洪水が予想を超えるような大規模なものだと越水し、堤防が決壊する可能性があります。

高規格堤防は・・・

越水が起きても堤防上を緩やかに水を流すことで、堤防の決壊を防ぎます。



▶ 高規格堤防の効果②

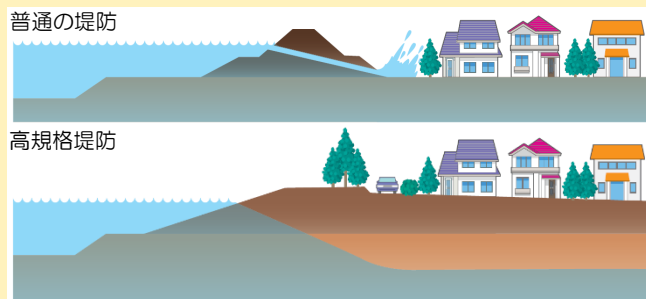
浸透しても壊れにくい

普通の堤防は・・・

洪水が想定されていたものより大規模で長期間続き、水が堤防に浸透すると、堤防が決壊するおそれがあります。

高規格堤防は・・・

水が浸透しても、従来の堤防に比べて幅が広いので、不安定化により堤防が壊れることを防ぎます。



▶ 高規格堤防の効果③

地震時の液状化に強い

普通の堤防は・・・

大地震が発生すると軟弱地盤の市街地は、液状化などで大きな被害を受ける場合があります。

高規格堤防は・・・

必要に応じ地盤改良を行い、強い地盤とすることで、壊滅的な被害を防ぎます。

